教師が変わる　授業が変わる　学校が変わる

# 授業改善のポイント 2016

新潟県教育庁中越教育事務所　平成28年３月

各学校で校内研修が積極的に進められ、「身に付けさせたい力」を明確にした授業改善が定着し、児童生徒が着実に学力を伸ばしてきています。

この「授業改善のポイント2016」は、昨年度の内容をベースにしています。その上で、「私の授業改善」の質を高めていくための「全校体制」を構築する際のヒントや、「身に付けさせたい力」を明確にして単元を構想するポイントを具体的に示しました。

各学校の課題や児童生徒の実態に応じてこのリーフレットを活用し、全校体制での組織的・協働的な取組を推進するとともに、授業改善の質を高めるようにお願いします。

## ジャンプアップ！！私の授業改善

I-1 「身に付けさせたい力」を明確にする

I-2 単元の構想を立てる

Ⅱ 児童生徒が学ぶ意味が分かるように授業を構想する

Ⅲ 児童生徒が自らの学びを確認できるようにまとめと振り返りを構想する

Ⅳ 教師の振り返りを授業改善につなげる

## パワーアップ！！全校体制

Ⅰ 改善意欲を高め、方向付ける校長・研究主任

Ⅲ 課題把握と指導法の見直し

Ⅱ-1 全職員の協働による授業改善の支援

Ⅱ-2 日々の授業改善の促進

上の図のように、個々の「私の授業改善」を「全校体制」で支えていくことが大切です。この考え方は、昨年度と変わりありません。

近年、ＯＪＴの重要性が指摘されています。学校の協働体制を確立し、継続的に授業改善を進めていくことが、ＯＪＴの活性化にもつながります。

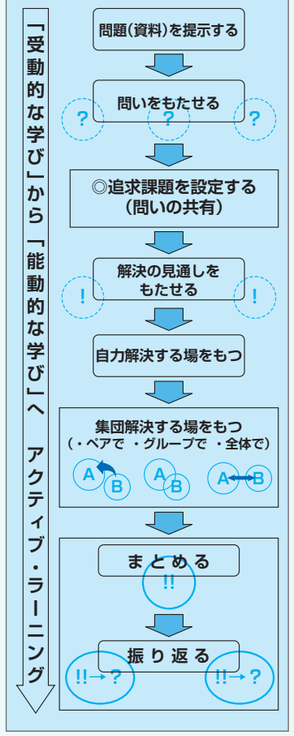
# パワーアップ！！全校体制

全校体制での組織的・協働的な取組により、個々の「私の授業改善」を支援・促進できる関係を構築して、授業改善の質を高めましょう！

### ※❶　『目指す授業像』のイメージ図

全職員で協議しながら、共通の授業イメージを作り上げていくことが大切です。

『目指す授業像』のイメージ図（Ａ校）




イメージ図をもつことで、授業改善を具体的に進めていくことができます。

### ※❻　多面的に状況をつかみ、課題を明確にし、共有する

PDCAのサイクルを次の例のように確実に回すことが大切です。

| | | |
|---|---|---|
| P | 課題 | 「自分の考えをまとめ、自信をもって発表することができる」生徒の育成 |
| | 現状 | 生徒アンケート肯定的評価35% |
| | 方策 | 問題意識を触発する課題の設定<br>理解や考えを深める話合いの組織 |
| D | | 問題意識を触発する課題について職員で研修するとともに、話合いの目的を事前に生徒と共有する方策を共通で実施した。 |
| C | | 生徒アンケート「自分の考えをまとめ、自信をもって発表することができる」肯定的評価68%<br>職員の評価「話合いを収束させることに困難を感じている」 |
| A | | 方策は一定の成果を得た。さらに、話合いを深めるために、思考ツール等の活用を検討していく。 |

「C」の段階で、「P」や「D」に整合していない「『授業が分かる、授業に積極的に参加している』生徒の割合」や「『生徒は授業で積極的に発表するようになってきている』という職員の評価」だけでは、次の改善の方向である「A」を明確にすることが困難です。「C」の段階で、どんなデータを集め、どのデータを検証して次に生かすかが、学力向上策をマネジメントし、職員のベクトルをそろえる上で重要な課題になります。

## Ⅰ　改善意欲を高め、方向付ける校長・研究主任

**校　長**　**自校の課題を明らかにし、目指す子どもの姿を実現するための校長のビジョンを示します。**

**研究主任**　**課題解決に向けて、全職員で取り組むことのできる具体的な研修計画を立てます。**

- 「『目指す授業像』のイメージ図」※❶や「授業の基本型」の作成
- 授業改善策、具体的取組、検証方法の提示

## Ⅲ　課題把握と指導法の見直し

- **学年部や教科部、学校全体で行う取組の実施状況を定期的に確認します。**
  - 継続的な授業の振り返り等の蓄積※❺
  - Web配信集計システム等を活用した実態把握
- **多面的に状況をつかみ、課題を明確にして、共有します。※❻**
  - 各種調査のデータを活用した課題把握と授業改善
  - 望ましい生活習慣という視点からの課題の把握

### ※❺　授業の振り返り等の蓄積

「年間指導計画」に授業の振り返り等を書き込むことが、次年度の単元単位での見直しにつながります。

年間指導計画を作成して終わりではなく、単元や授業の前後に目を通す習慣を付けることが、授業改善の第一歩です。

## Ⅱ-1　全職員の協働による授業改善の支援

- **協働的な体制により授業改善に向けた取組を支援していきます。**
  - 「模擬授業」による手だての練り直し
  - 学年部・教科部の枠や校種を超えての指導案検討等
- **公開授業・協議会を全員が学ぶ場に※❷します。**
  - 成果や具体的な改善策の共有による学び合いの重視
  - 協議会を通して、個々に何を学んだかを明らかにする場の設定

## Ⅱ-2　日々の授業改善の促進

- **日々の授業から学び合うことができる工夫や日々の授業改善を組織で促進していきます。**
  - 日常的に教師間の情報交換が活発になるしくみづくり※❸
  - 授業改善を進める環境整備※❹

### ※❹　授業改善を進める環境整備

「ねらい」と「まとめ」の『プレート』や『小型ホワイトボード』の活用が広がってきています。

これらの道具の活用が、学習の質の向上につながるように、次の点から検討する必要があります。

(ｱ)　「ねらい」と「まとめ」が整合しているか。
(ｲ)　『小型ホワイトボード』の使用が児童生徒の思考の練り上げにつながっているか。

有効に活用する方法等を全職員で共有し、実践につなげることが求められています。

### ※❷　協議会を全員が学ぶ場に

協議会の質を高めるためには、目的に合わせて方法を選択することが大切です。目的には、

(ｱ)　テーマに基づき、手だての有効性等を明らかにする。
(ｲ)　授業の中での気付きを多面的に出し合い、新たな見方を得る。

などがあります。その目的や参加する構成員の実態に合わせて、適切な協議会の方法を選択することが大切です。

(ｱ)　全員で意見交換する「全体協議会」とする。
(ｲ)　小グループでの活動を基本とする「ワークショップ型協議会」とする。

ビデオ等の映像を積極的に活用して、授業を見ながら検討を重ねている学校もあります。

### ※❸　情報交換が活発になるしくみづくり

教材研究をしたり、児童生徒の授業中の様子を共有したりする場を次のように意図的に設定することで、情報交換が活発になります。

(ｱ)　教材研究に特化した学年会や教科部会を定期的に開催する。
(ｲ)　気軽に互いの授業を見る機会を確保する。

また、次のような方法で授業に関する情報を共有するシステムを構築することで、授業改善が組織的に推進されます。

(ｱ)　撮影した板書の写真を公開して互いの参考とする。
(ｲ)　教材やワークシートを協働で作成し、一括保存して次年度の授業改善に生かす。
(ｳ)　Web配信集計システムの各種問題を実施後、その分析結果を共有フォルダに入れ、互いの改善策を共有する。

# ジャンプアップ！！私の授業改善

個々の教師が「何を」「なぜ」教えるのかという問いと向き合い、児童生徒が学ぶ意味が分かるように授業を構想・実践し、結果を振り返ることで、授業改善の質を高めましょう！

## Ⅰ-1 「身に付けさせたい力」を明確にする★1

「何を」「なぜ」教えるのかを把握し、「身に付けさせたい力」を明確にします。

## Ⅰ-2 単元の構想を立てる★2

「身に付けさせたい力」を明確にした授業を構想するために必要な情報を収集し、整理します。そして、単元の構想を立てます。

### ★1「身に付けさせたい力」を明確にする

次のような手段で、その単元や授業で身に付けさせたい力を明確にします。

ア　題材、教材の本質・背景を知る
イ　学習指導要領で内容系列や指導のポイントを確認する
ウ　児童生徒の学習履歴やつまずきの原因を把握する
エ　教科書比較をする
オ　先行実践に学ぶ
カ　自分の実践を振り返る
キ　年間指導計画を確認する　等

### ★2 単元の構想を立てる

これを受けて、単元を構想していきます。主に次のようなことを考えていきます。

(1)　単元全体のねらいを明確にする
(2)　単元を貫く課題を設定する
(3)　単元のゴールの姿を描く
(4)　ゴールの姿実現のための学習活動の流れを計画する　等

### ★3 問題意識を触発して課題を設定する

問題意識は、意外性、驚き、感動や強い目的意識等により触発されます。次のような手だてをとることが有効です。

ア　既習事項と比較する場面を設定したり、見慣れていた事象が違って見える状況をつくったりする
イ　適度な困難性がある問題を提示する
ウ　他の児童生徒の考え方等との違いに気付かせる
エ　自分自身や日常生活との関連を考える場面を設定する

触発した問題意識に基づいて課題を設定します。授業では「課題」「ねらい」「◎」等で示されます。児童生徒とともにつくることを目指します。

## Ⅱ 児童生徒が学ぶ意味が分かるように授業を構想する

Ⅰ-1、Ⅰ-2を基に、授業を構想します。

ア　児童生徒の問題意識を触発して課題を設定する★3
イ　解決の見通しを立てるための手だてを講ずる
ウ　理解や考えを深める話合いを組織する★4

## Ⅲ 児童生徒が自らの学びを確認できるようにまとめと振り返りを構想する

どんなことを学習したのか、自分にとってどんな意味があったのかを児童生徒が自己評価できるように、まとめと振り返りを構想します。

ア　学んだことが明確になるまとめにする
イ　意欲を高め、学びをつなげる振り返りにする★5

### ★4 理解や考えを深める話合いを組織する

話合いの場を設定することは、児童生徒の理解や考えを深めるための有効な手だてとなります。その際には、次の２点が大切なポイントになります。

(1)　自分の考えをもち、話合いの必然性が感じられるようにすること
　他の意見や考え方を聞いてみたい、話し合ってみたいという意欲をもち、自分自身の考えや立場が明確になっていることが大切です。
(2)　目的を明確にして話合いを進めること
　話し合う目的は、大別すると「異なった意見や考えをいくつかに集約すること」と「自分にはない考えを知り、新たな気付きを得ること」の２つがあります。教師と児童生徒の間で、目的が合意されていることが重要です。

**〈国語科　話合い活動の支援例〉**

説明的文章で、筆者の論述の妥当性を検討しながら読む力を身に付けさせます。そのためには、「新たな気付きを得る話合い」ではなく、「集約する話合い」にすることが必要と考え、以下のように支援していきます。

**〈支援１〉**
個々が自分の考えをもち、立場を明確にできるように支援します。
**〈支援１のポイント〉**
① 目的に合った課題を立てる
「◎この文章は根拠や論述が妥当であり、主張は正しいか」のように、考えが対立する課題にします。
② 必要な読解学習を行う
自分の考えや立場を決定するために必要な箇所について、全員で確認します。
③ 自分の考えを整理させ、自分の立場を決定させる
自分の考えを整理する時間をとり、発言やネームプレート等で立場を表明させます。
④ 話合いの必然性をもたせる
考えや立場に違いがあることに気付かせ、話合いではっきりさせる必然性を高めます。

⇨ 考えや立場が明確になる

**〈支援２〉**
集約する話合いでは、最終的に全員の見解を一つにすることを理解し、納得して話合いに臨めるように支援します。
**〈支援２のポイント〉**
⑤ 話合いの目的を確認する
今回の話合いでは、根拠を基に議論し、結論を一つにまとめることを確認します。
⑥ 論点や違い、根拠をはっきりさせる
対立点等から論点を決めさせます。必要に応じ、同じ立場同士で集まって自分たちの考え等を明確にしたり根拠を強化したりさせます。
⑦ ふさわしい話合いの進め方を教える
次のような手順で話合いを進めていくとよいことを伝えます。
・論点一つずつについて、根拠を基に判断していく。
・二者択一できない場合、譲り合えるところを見付けたり、折衷案を作り上げたりする。
・結論や議論の過程を確認し、共有する。

⇨ 集約する話合いへ

特に集約する話合いの後には、議論の結果を受けて自分の考えを変更したり、より説得力のある根拠に気付いたりした姿を教師が見取り、価値付けることが大切です。

### ★5 意欲を高め、学びをつなげる振り返りにする

深い理解を促すには、新しく獲得した事柄を既有の事柄とつなげるような振り返りにすることが大切です。

(1)　どんなことを振り返らせるのか
　・何を学んだのか　　・自分にとってよかったことは何か
　・自分の考えがどう変わったか　　・友達のどんな考えがよかったか
(2)　どんな振り返り方があるか
ア　キーワードで振り返らせる
　・教師がキーワードを提示して、児童生徒がその言葉を使って振り返りを書く
　・その時間の学習内容を児童生徒がキーワードにしてみる
イ　評価問題を設定する
　・授業で行ったことと「少し違う形の問題」「異なった問い方」「別の資料」等で、学習した考え方が使えるかを確かめられるような評価問題が有効
ウ　規準を共有しながら、感想の内容を充実させる
〈規準の例〉
　第１段階：「楽しい」「わからない」等の言葉が中心で、学習内容の具体的な記述がなく抽象的な言葉が多い
　第２段階：どこがわかったのか、つまずいたのかなど、自分の考えが書いてある
　第３段階：自分の考えだけでなく他人の考えについてどう思ったかが書いてある
　第４段階：自分の考えを見直している記述や問い直しや発展を考えている
　秋田喜代美（2012）『学びの心理学』左右社　p.130より引用
エ　単元等の一定の学びのまとまりごとに、学習の過程を振り返る
　・ポートフォリオや、単元のまとめのレポートをつくることが有効

## Ⅳ 教師の振り返りを授業改善につなげる

次の視点から日々の授業を振り返り、改善していきます。

ア　ねらいの達成度や手だての効果を検証する★6
イ　次の学習課題や手だてを修正する★6
ウ　授業アンケートや学力検査等からも改善点を見付ける
エ　週案や年間指導計画等に記録する

### ★6 ねらいの達成度や手だての効果を検証し、次の手だてを修正する

指導と評価を一体的に進めることで、指導の改善を図ることが大切です。

(1)　１時間あるいは単元単位ごとに、教師の手だての有効性を児童生徒の振り返りでも評価する
(2)　児童生徒の振り返りを次時の授業構想や問題意識の触発に生かす

## 「身に付けさせたい力」を明確にして単元の構想を立てる －中学校　英語科を例に－

年　組　名前

【Ｌｅｓｓｏｎ５の目標】　（この単元の学習で、次のことができるようになります。）

・スティービー・ワンダーのラジオの放送番組を聞いたり読んだりして、その内容を理解した上で、ラジオのパーソナリティーとして聞いている人に分かりやすく伝えるように原稿を読めるようになります。
→　グループ対抗の放送コンテスト（録音）を行います。

【目標達成までの道のり】　（この単元の学習は、次のように進みます。）

| Part | 時 | 目指すこと | 各Partで「できること」 | できたもの |
|---|---|---|---|---|
| Part 1 | 1 2 | ○放送を聞いて、聞き取れた内容をもとに概略の年表を作り、スティービー・ワンダーの生涯について概略を理解します。 | ・新出単語を聞いて意味が分かる。 | |
| | | | ・ラジオを聞いて、必要な情報を大まかに聞き取ることができる。 | |
| | | | ・年表を完成させ、スティービー・ワンダーの生涯について概略を理解できる。 | |
| Part 2 | 3 4 | ○放送の内容をさらに詳しく理解するために必要な関係代名詞の用法を学びます。<br>○放送内の関係代名詞が使われている文の内容を理解します。 | ・関係代名詞の用法が分かる。 | |
| | | | ・関係代名詞を用いて、簡単な対話ができる。（教科書の活動） | |
| | | | ・放送の関係代名詞が使われている文の意味が分かる。 | |
| Part 3 | 5 6 | ○グループで、内容を確認しながら、放送コンテストの準備をします。<br>○録音１回目 | ・新出単語を正しく読むことができる。 | |
| | | | ・意味を考えながら、大切な語にきちんと強勢を置いて読むことができる。 | |
| | 7 | ○録音を聞いて、グループで改善点を考え、練習します。 | ・意味を考えながら、意味のまとまりごとに区切って読むことができる。 | |
| | 8 | ○発表１回目<br>○ＡＬＴの先生からアドバイスをもらい、練習します。<br>◎放送コンテスト録音 | ・各グループが考えたポイントに従って工夫して読むことができる。 | |
| | | | ・ＡＬＴの先生のチェック内容から改善点が分かる。 | |
| | 9 | ○放送コンテスト当日！ | ・分かりやすく英語で伝えるために必要なことが分かる。 | |
| Part 4 | 10 | ○これまでの学習を生かして、オードリー・ヘップバーンについて相手が理解できるよう伝えます。 | ・p. 73 の内容を理解し、文を相手に伝わるように読める。 | |
| | | | ・p. 73 の質問に答えることができる。 | |

(1)　**単元のねらいを明確にする**
「この単元でどのようなことができるようになればよいか」を明確にします。英語科では、各学校で作成した「ＣＡＮ－ＤＯリスト」による学習到達目標に基づいて設定します。

(2)　**単元を貫く課題を設定する**
この単元全体を通して「学ぶことの必要性・意義」を生徒が感じられるような課題を設定します。英語科では、できるだけ現実に即した状況の中で、生徒が英語を用いて解決していく課題（タスク）を工夫します。

(3)　**単元のゴールの姿を描く**
単元の最後の課題における目指す生徒の姿を具体的にイメージします。英語科では、その姿の実現に向けて単元を通して課題を追究する中で「生徒に身に付けさせたい力」を下のようなルーブリック（※）を利用することで明確にできます。　※ルーブリック…課題の達成の質（熟達度）を評価するための観点と規準を示す表

(4)　**ゴールの姿実現のための学習活動の流れを計画する**
単元の最後の課題を生徒が達成できるよう学習の流れを構想します。その際、ゴールの姿から逆向きに単元をデザインする考え方も大切です。
より主体的に学ぶ姿勢をつくるために、英語科では、左の単元計画や右のルーブリックを生徒に配付して単元のゴールや流れ、評価の観点を生徒と共有することが有効であると考えています。

ルーブリックを利用した評価表

【ラジオ番組の評価】　年　組　名前

| | A | B | C | Your |
|---|---|---|---|---|
| stress | 文の内容をよく考え、大切な語に正しくストレスをおいて読んでいる。 | 間違いはあるものの、ストレスを意識して読んでいる。 | ストレスを全く意識していない。 | |
| chunk | 文の内容をよく考え、まとまりごとにきちんと読んでいる。 | 間違いはあるものの、まとまりを意識して読んでいる。 | 文の内容やまとまりを全く意識していない。 | |
| accuracy | 読み間違いがほとんどなく、不自然な発音も少ない。 | 時々読み間違いが見られる。 | 何を言っているか聞き取れない。 | |
| fluency | 英語らしく、すらすら読んでいる。 | ゆっくりだが確実に読んでいる。 | 読むことができない。 | |
| atmosphere | ラジオ番組らしくなるようによく工夫している。 | ラジオ番組らしい工夫が一部見られる。 | ラジオ番組らしくない。 | |

※評価の観点を明確にして振り返りを行う
ルーブリックを準備することで、生徒が各授業の振り返りを行う時に、振り返る視点が明確になります。また、教師も身に付けさせたい力について生徒の状況を形成的に評価できるようになり、指導と評価の一体化を図ることができます。